

平成26年度

中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会

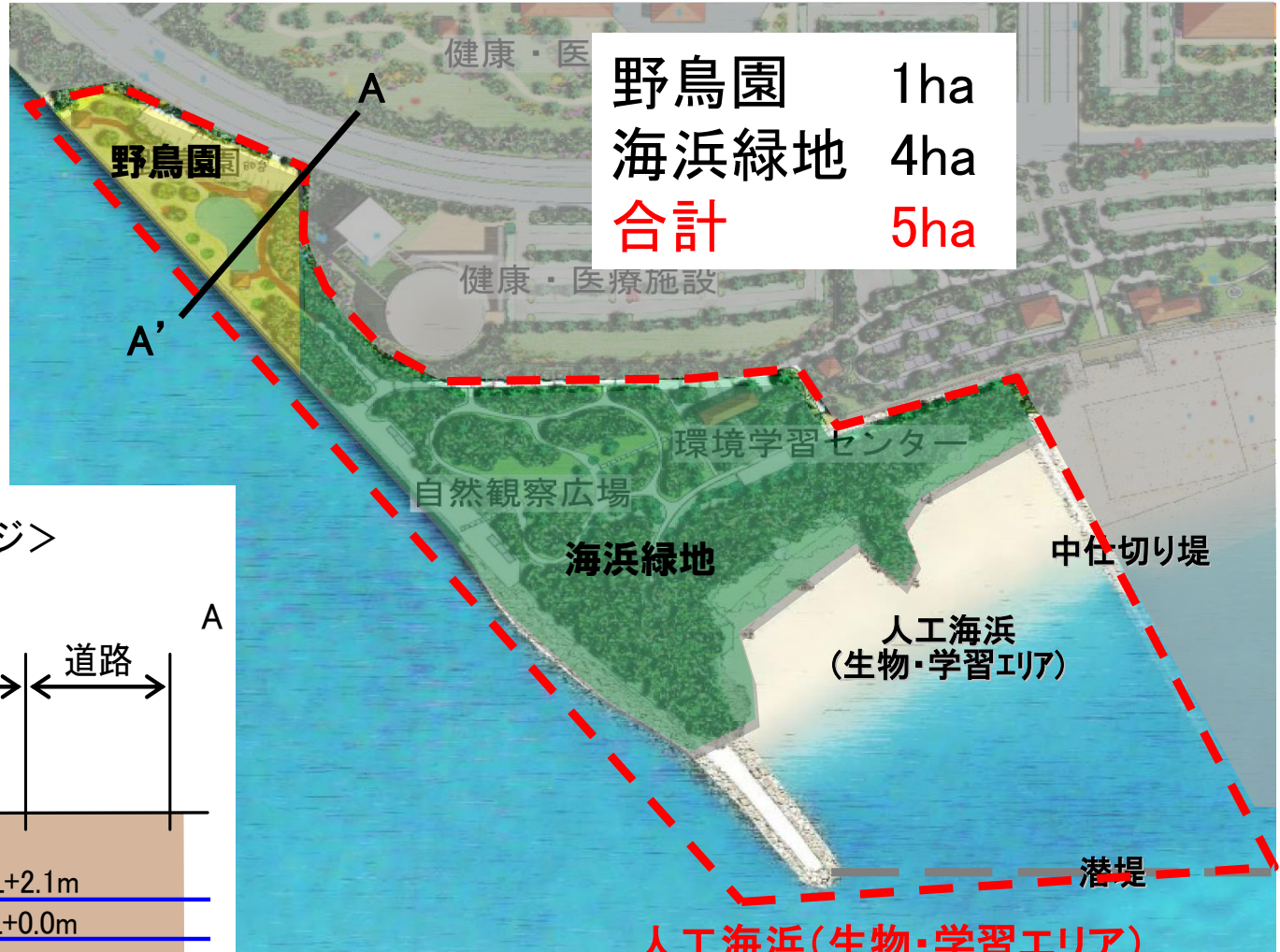
第1回 人工島環境整備専門部会

【計画地及び周辺地域の状況】

平成26年10月24日

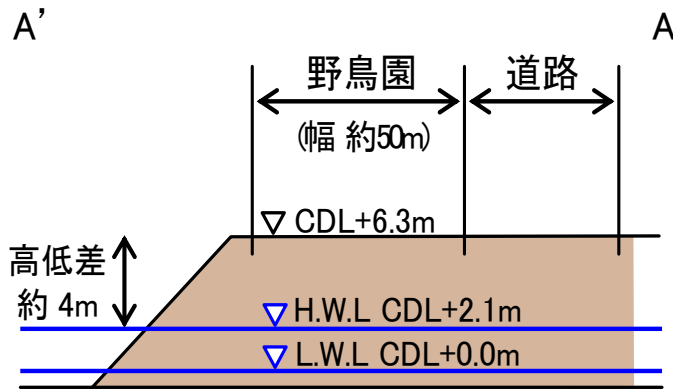
人工海浜及び野鳥園計画地の立地状況

- ・人工島南西部に位置しており、面積は約5ha(ビーチ及び水域部を除く)
- ・港湾計画上は緑地として位置づけられる



野鳥園	1ha
海浜緑地	4ha
合計	5ha

<野鳥園付近の断面イメージ>



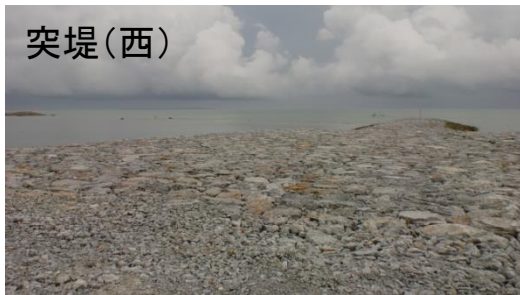
※H23 埋立変更申請図書を参考に作成

**人工海浜(生物・学習エリア)
及び野鳥園の計画地**

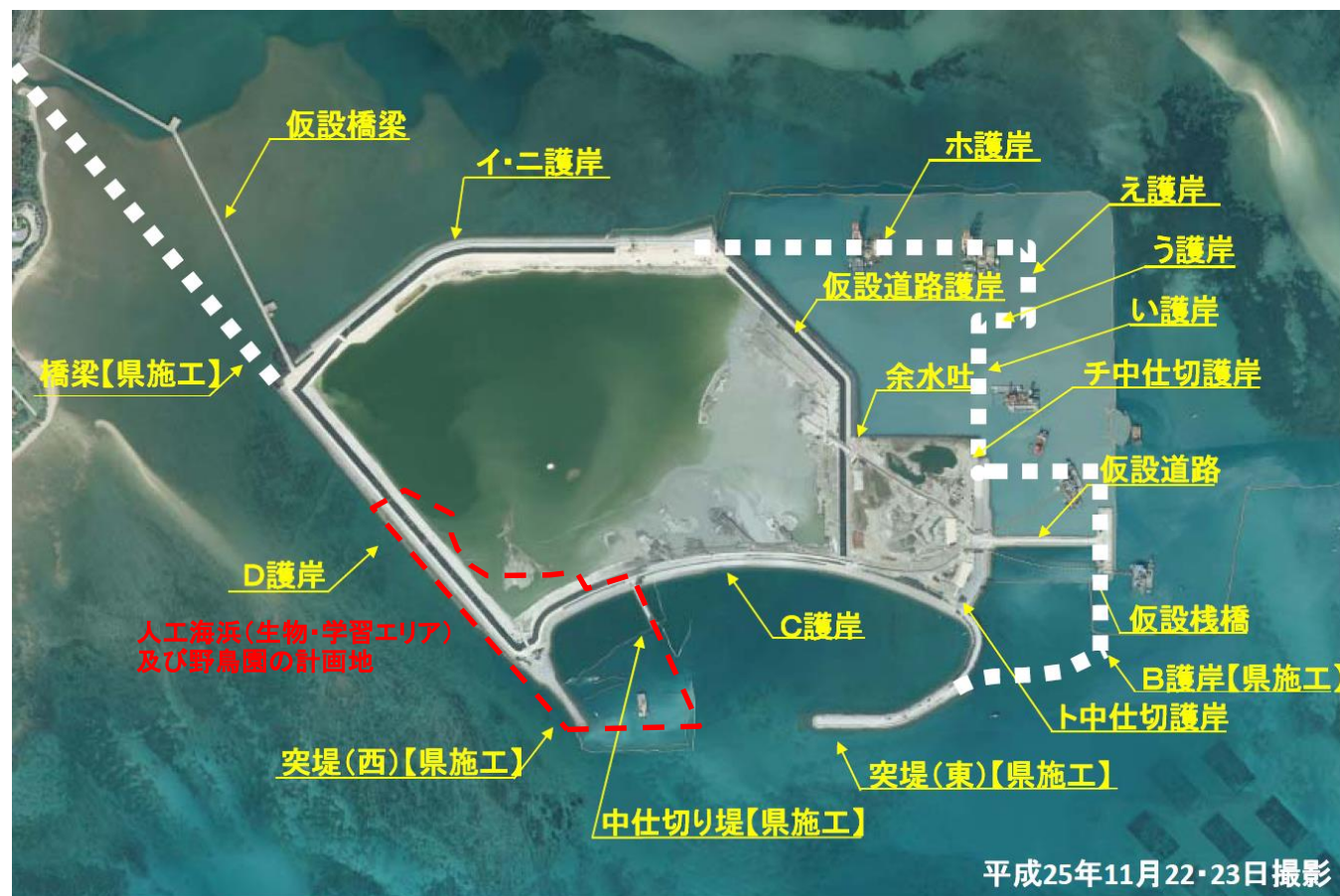
埋立地の現況

- ・H14年10月に海上工事を着手、H19年度末迄に埋立計画95haのうち、約69haが締め切られた。
- ・H26年度は、外周護岸(い・う・え・ホ護岸)、人工海浜(養浜・中仕切堤・潜堤)、橋梁(仮棧橋)、新港地区の泊地浚渫及び泡瀬地区への土砂投入等が行われる。

突堤(西)



人工海浜

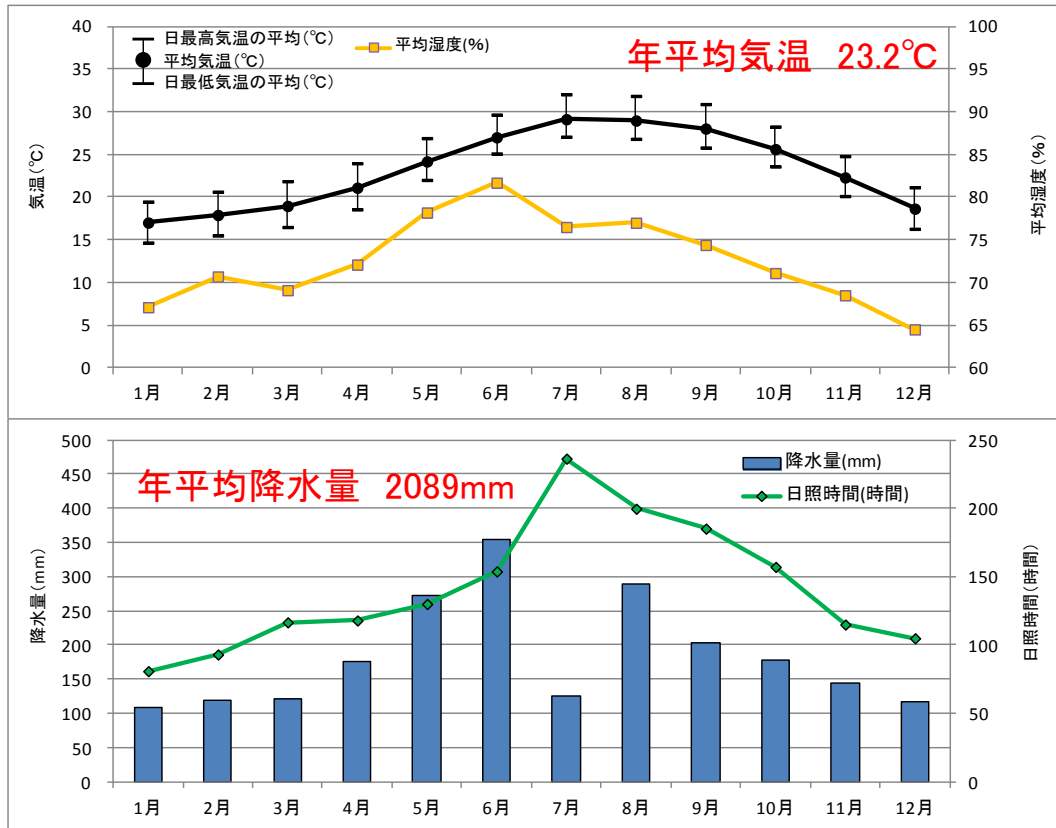


平成25年11月22・23日撮影

気象状況(気温・降水量・台風)

- ・年平均気温は約23℃、降水量は2,000mm/年を超える
- ・台風は、年によってばらつきがみられるが、多い年は7~8の台風が接近する

気温・降水量等



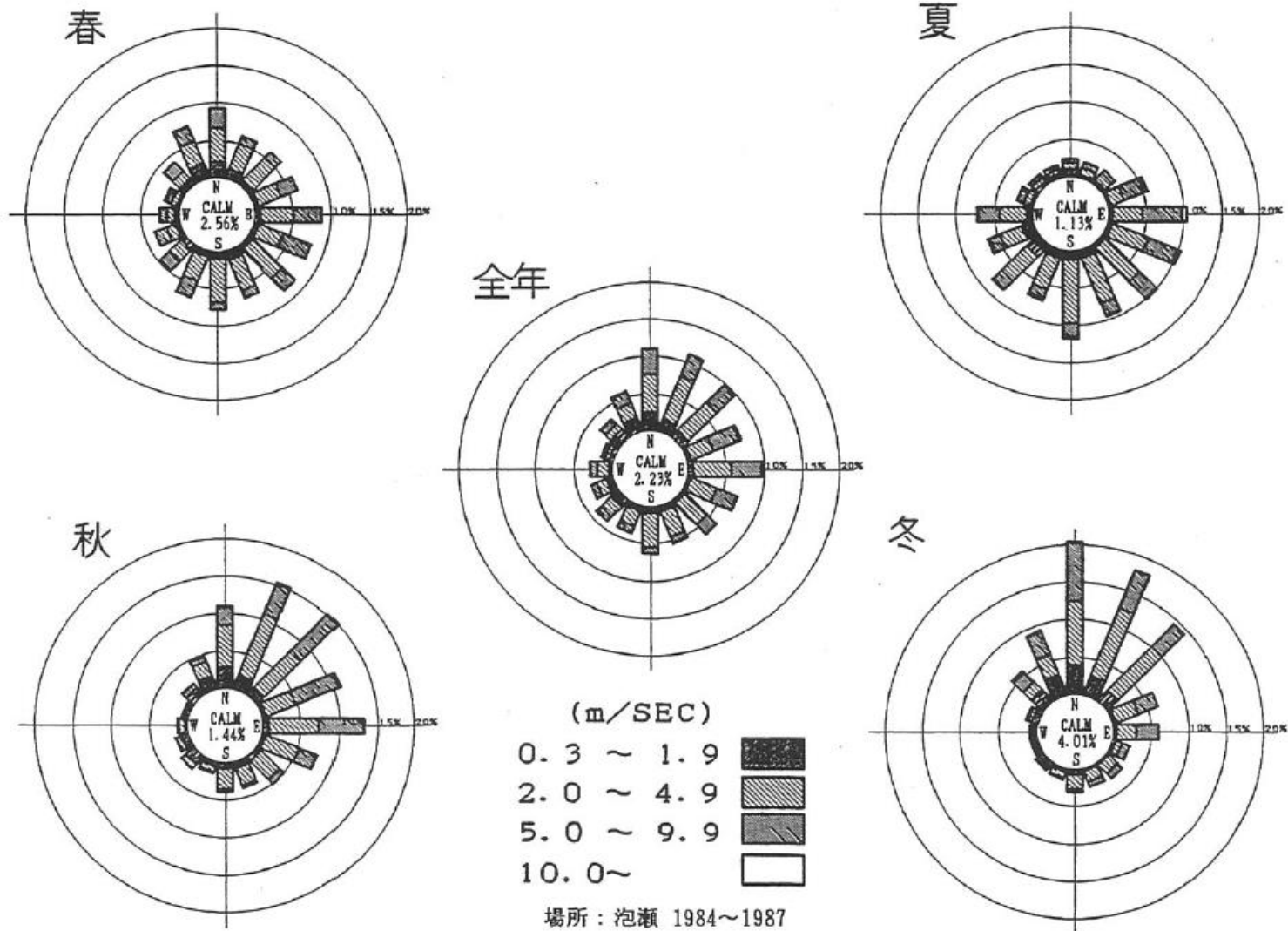
台風の接近状況

年・月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
H16年		2		1	2	2	7
H17年							0
H18年			1	1	1		3
H19年			1		1		2
H20年					1		1
H21年						2	2
H22年				2*	2*	1	4
H23年	2			1	1		4
H24年		2	1	2	2	1	8
H25年		1		1	1	3	6
各月計	2	5	3	8	10	9	

※は二つの月にまたがって接近したことを示す

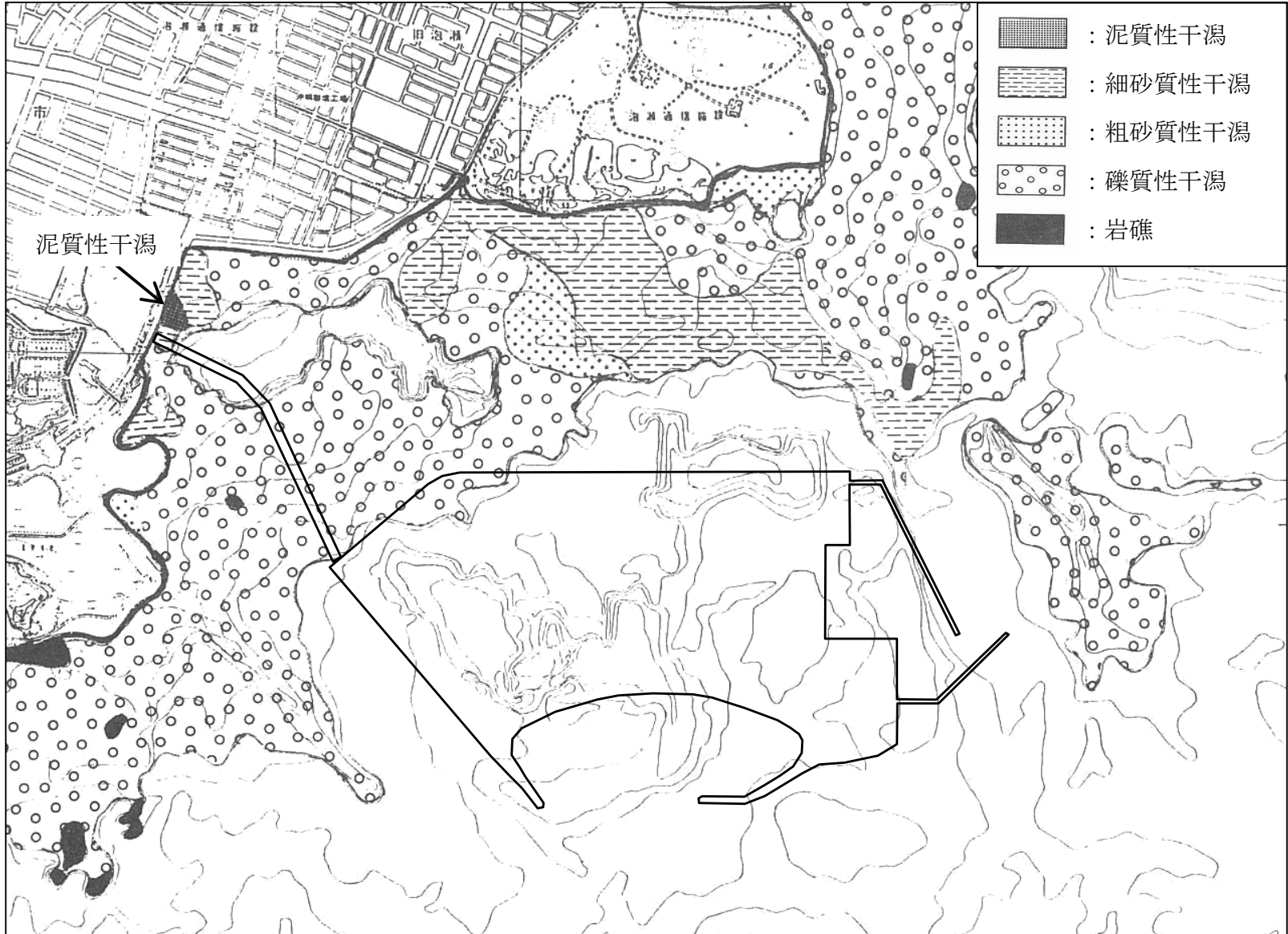
気象状況(風)

- ・風向は、年間を通しては北～東方向が卓越し、風速5m/s未満が約7割の頻度
- ・季節的には、夏は東～南方向、秋冬は北～東方向が卓越する



干潟区分

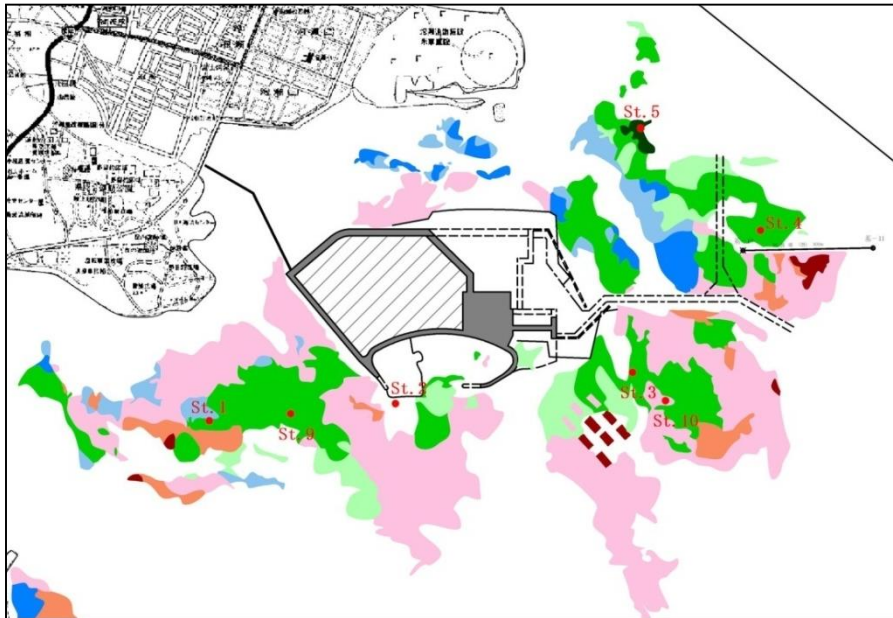
・泡瀬干潟は、礫質性干潟が中心、泥質性干潟もわずかに分布



藻場・サンゴ類

- 人工島周辺には大型海草、小型海草、ホンダワラからなる藻場(350~400ha前後)が分布
- また、人工島の西に位置する防波堤近くに被度30~50%のサンゴ類(ヒメマツミドリイシ群集)が分布している他、被度10%未満のサンゴ類が点在

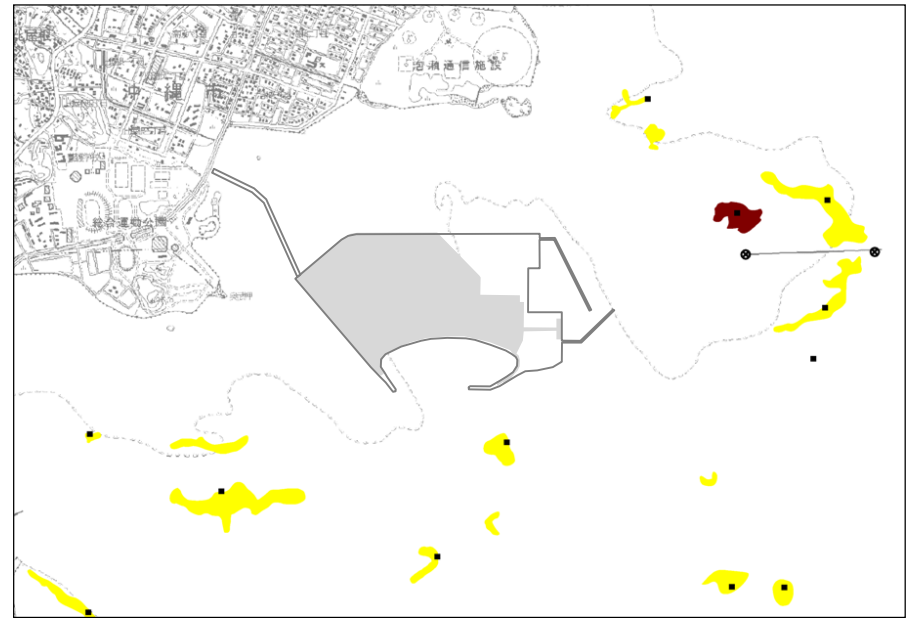
藻場



H25.11調査

凡		例	
	大型	50%以上	1.8 ha
	海草	10~50%	112.4 ha
	藻場	10%未満	38.2 ha
	小型海草	10~50%	20.1 ha
	藻場	10%未満	25.2 ha
	ホンダワラ	50%以上	5.3 ha
	藻場	10~50%	23.4 ha
	藻場	10%未満	171.8 ha
	調査範囲		
	監視調査点		

サンゴ類



: 被度 30~50% : 被度 10%未満

H20調査

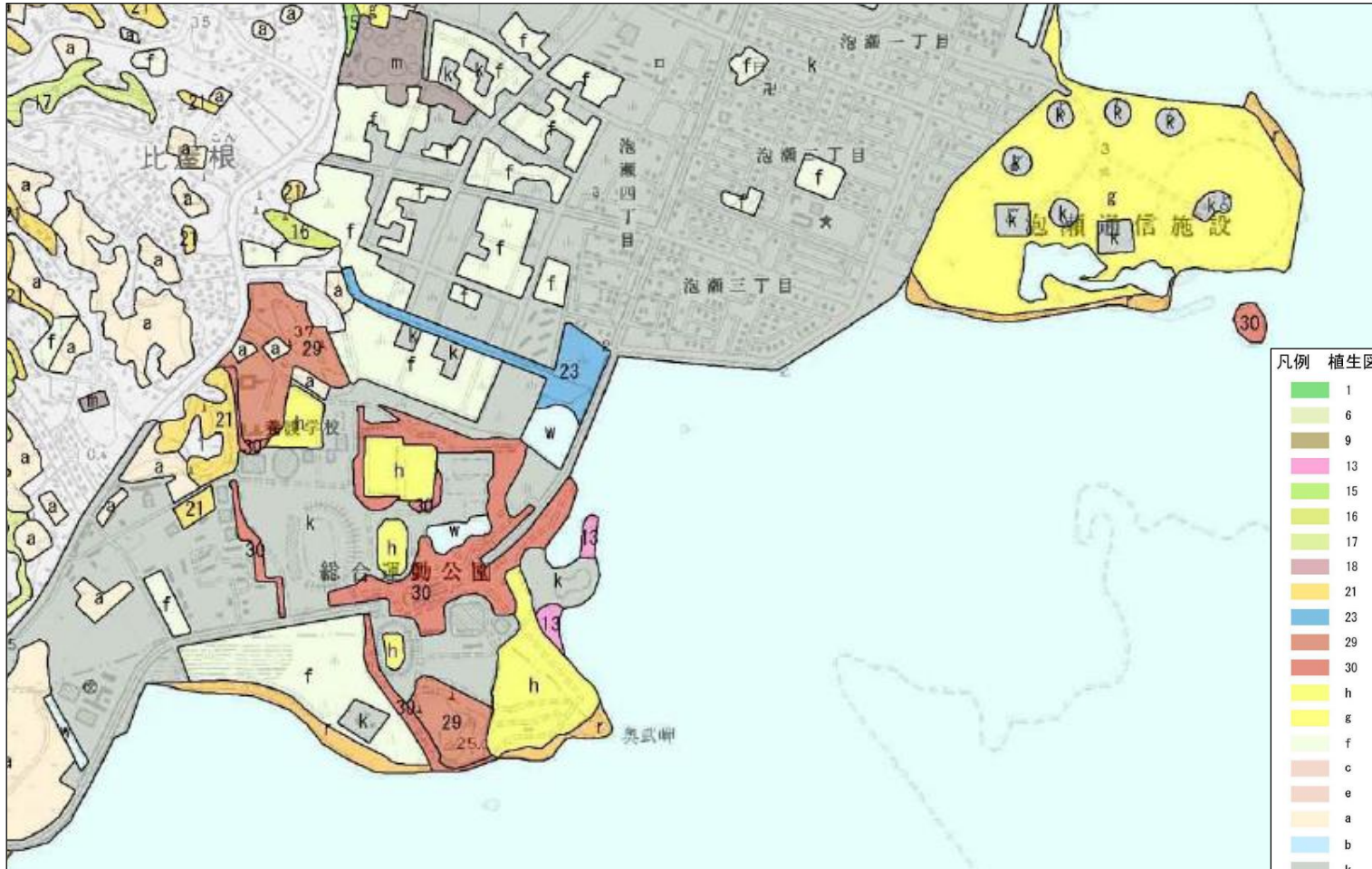
干潟生物

・イボウミニナやリュウキュウウミニナなど、主に砂質から礫質干潟に見られる種が多く生息している。

調査項目		平成24年度		平成25年度	
		H24. 7	H25. 2	H25. 7	H26. 2
種類数	軟体動物門	34 (1 ~ 8)	20 (0 ~ 7)	54 (4 ~ 20)	81 (3 ~ 41)
	環形動物門	34 (3 ~ 15)	29 (5 ~ 12)	54 (2 ~ 23)	49 (2 ~ 40)
	節足動物門	33 (2 ~ 13)	23 (2 ~ 7)	35 (3 ~ 14)	29 (2 ~ 14)
	その他	11 (0 ~ 4)	8 (0 ~ 3)	15 (1 ~ 7)	71 (1 ~ 12)
	合計	112 (14 ~ 38)	80 (9 ~ 22)	161 (18 ~ 62)	230 (9 ~ 107)
平均個体数 (個体/0.36m ²)	軟体動物門	60 (5 ~ 439)	7 (0 ~ 21)	182 (7 ~ 1,087)	289 (15 ~ 1,005)
	環形動物門	122 (13 ~ 312)	63 (16 ~ 227)	93 (11 ~ 157)	154 (2 ~ 353)
	節足動物門	28 (7 ~ 92)	24 (2 ~ 114)	35 (3 ~ 157)	65 (3 ~ 296)
	その他	6 (0 ~ 24)	3 (0 ~ 12)	11 (3 ~ 109)	32 (1 ~ 122)
	合計	215 (48 ~ 759)	96 (41 ~ 238)	3,843 (131 ~ 1,241)	6,474 (36 ~ 1,112)
個体数からみた主な出現種	アシヘマスカガイ <i>Notomastus sp.</i> <i>Malacoceros sp.</i> <i>Ceratonereis sp.</i>	<i>Malacoceros sp.</i> <i>Ceratonereis sp.</i> ユスリカ科 <i>Notomastus sp.</i> <i>Nephtys sp.</i>	リュウキュウウミニナ イボウミニナ <i>Malacoceros sp.</i> カンギク	イボウミニナ リュウキュウウミニナ ヒメクワノミカエモリ	
湿重量からみた主な出現種	オキシジミ ヤエヤマダレ イトコカイ科 リュウキュウシラトリ アシヘマスカガイ	オキシジミ ウラキツカガイ イボウミニナ ヤエヤマダレ	イボウミニナ カンギク リュウキュウウミニナ ヤエヤマダレ アラスジケマンガイ	イボウミニナ アラスジケマンガイ リュウキュウウミニナ カンギク オキシジミ	

陸域植物

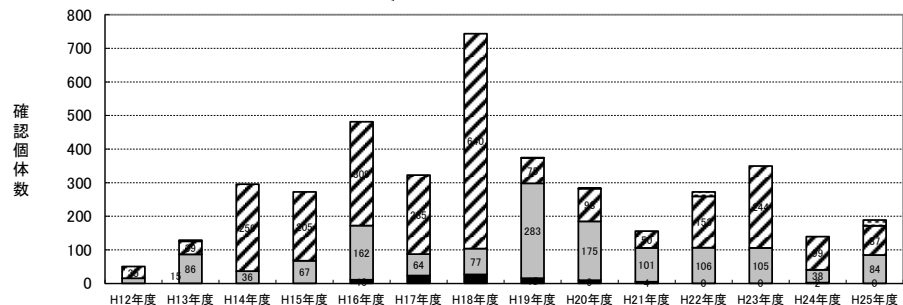
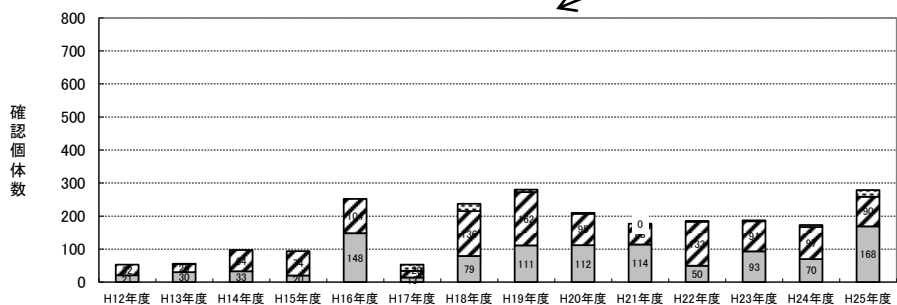
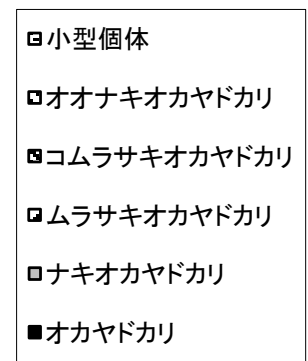
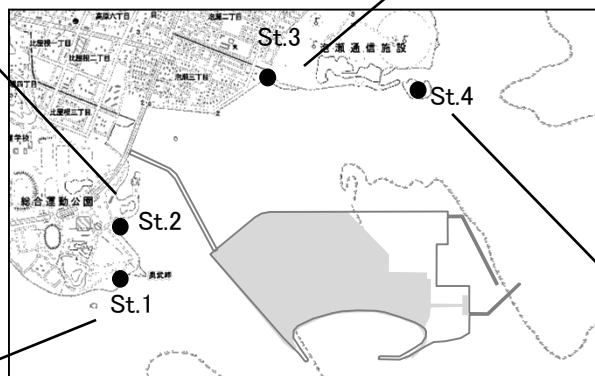
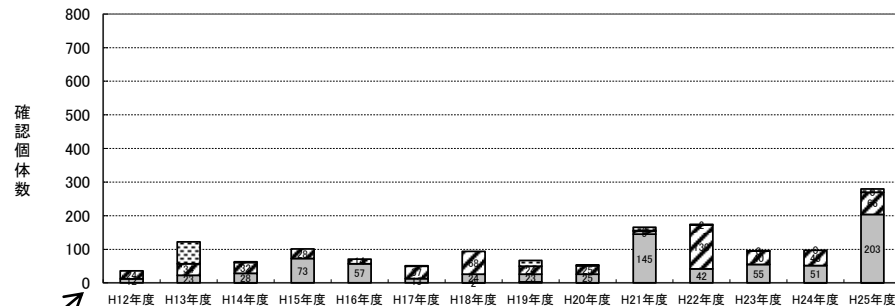
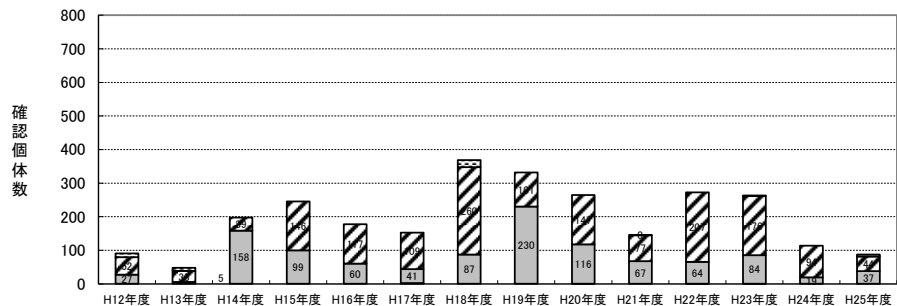
- ・泡瀬通信施設や沖縄県総合運動公園には、アダン群団や自然裸地が分布
- ・比屋根湿地にはヒルギ類(マングローブ)が生育



凡例	植生図凡例番号	統一凡例番号	統一凡例名
1	340302		アカテツハマビワ群集
6	360102		ナガミボショウジ-リュウキュウガキ群落
9	360100		ナガミボショウジ-リュウキュウガキ群団
13	390200		アダン群団
15	400702		ボショウジ-イジュ群落
16	400703		ナガミボショウジ-ヤブニッケイ群落
17	411200		ハドノキ-ウラジロエノキ群団 (二次林)
18	420300		リュウキュウマツ群落 (V I I)
21	451100		ナガバカニクス-ササキ群団
23	470400		ヨシクラス
29	540901		ギンネム群落
30	540904		モクマオウ類植林
g	560100		ゴルフ場・芝地
h	560200		牧草地
f	570100		路傍・空地雑草群落
c	570101		放棄畑雑草群落
e	570200		果樹園
a	570300		畑雑草群落
b	570400		水田雑草群落
k	580100		市街地
i	580101		緑の多い住宅地
L	580300		工場地帯
m	580400		造成地
w	580600		開放水域
r	580700		自然裸地

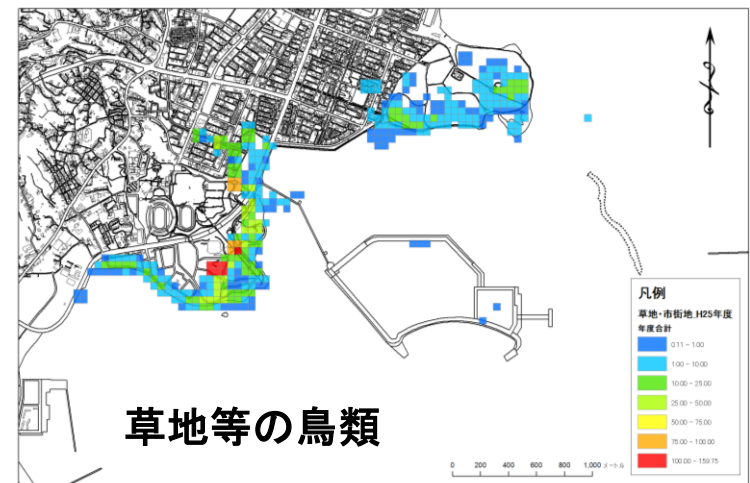
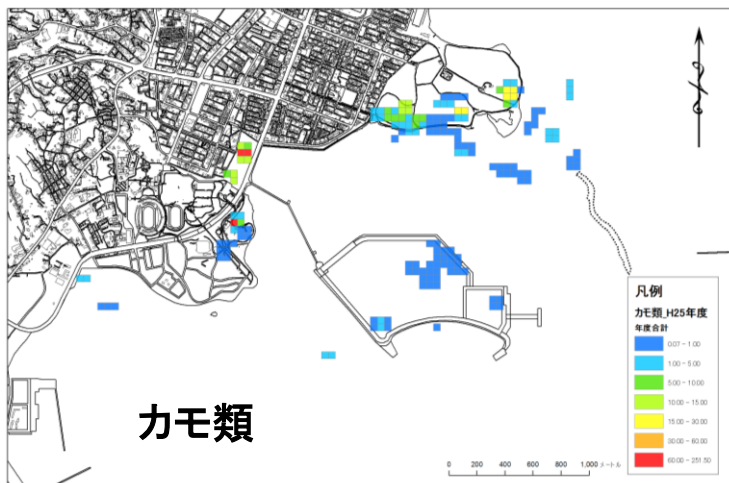
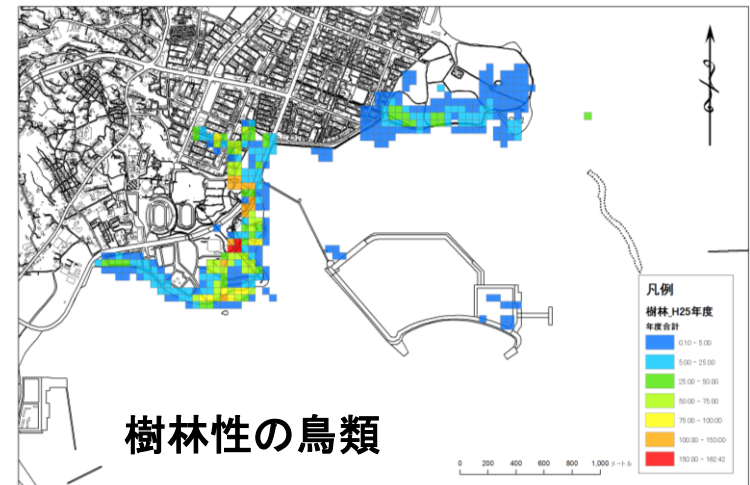
オカヤドカリ類

・泡瀬通信施設や沖縄県総合運動公園の沿岸部を中心に5種(オオナキオカヤドカリ、コムラサキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、オカヤドカリ)を確認



鳥類

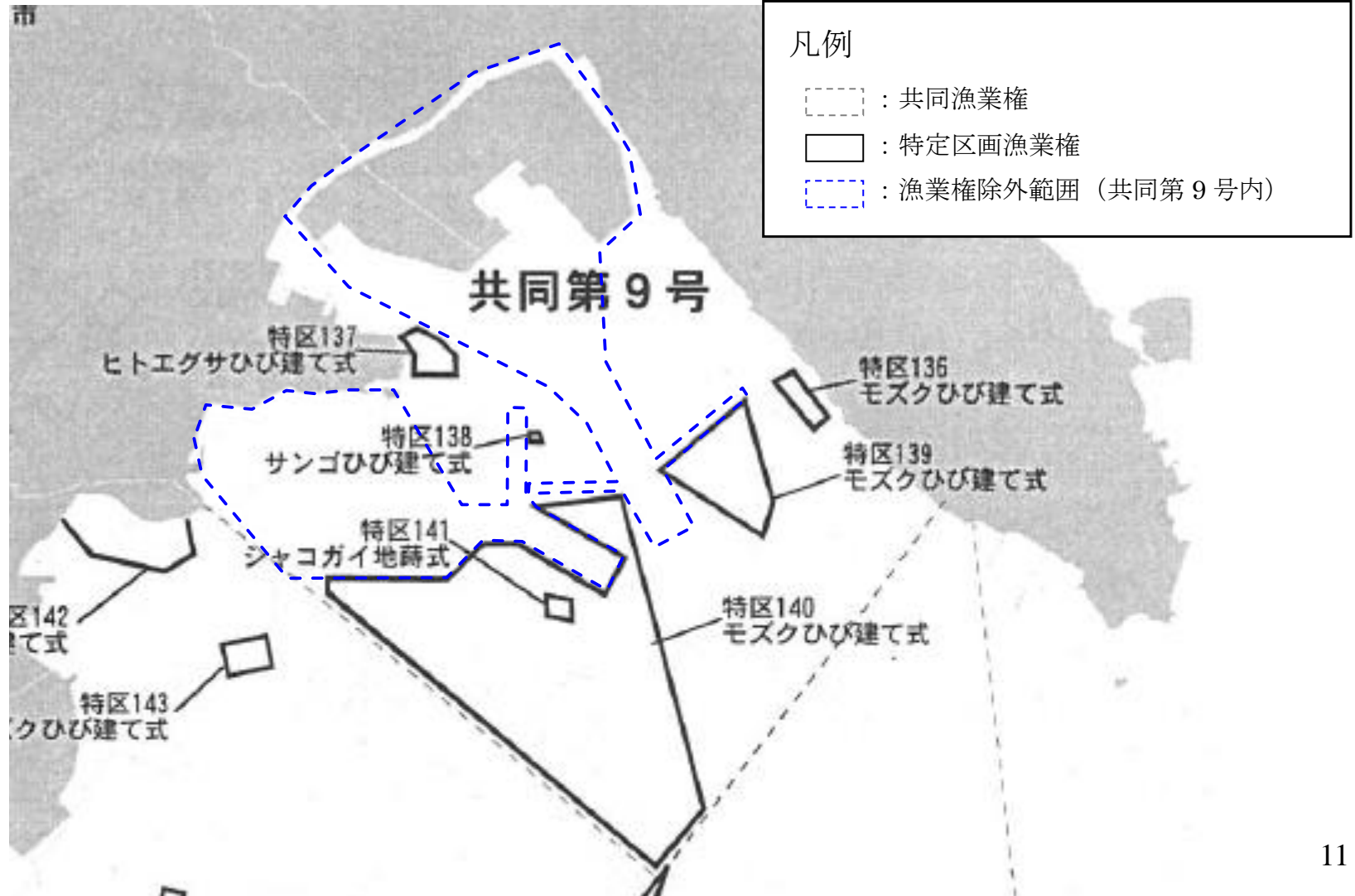
- ・14目39科167種の鳥類を確認
- ・シギ・チドリ類は、埋立地を含む干潟全体を利用
- ・カモ類は泡瀬通信施設や比屋根湿地が多い
- ・樹林や草地などを利用する鳥類は泡瀬通信施設周辺と沖縄総合運動公園が多い



漁業権

・周辺海域は共同漁業権(第9号)の他、ヒトエグサ、サンゴ、モズク、シャコガイの特定区画漁業権が設定

漁業権

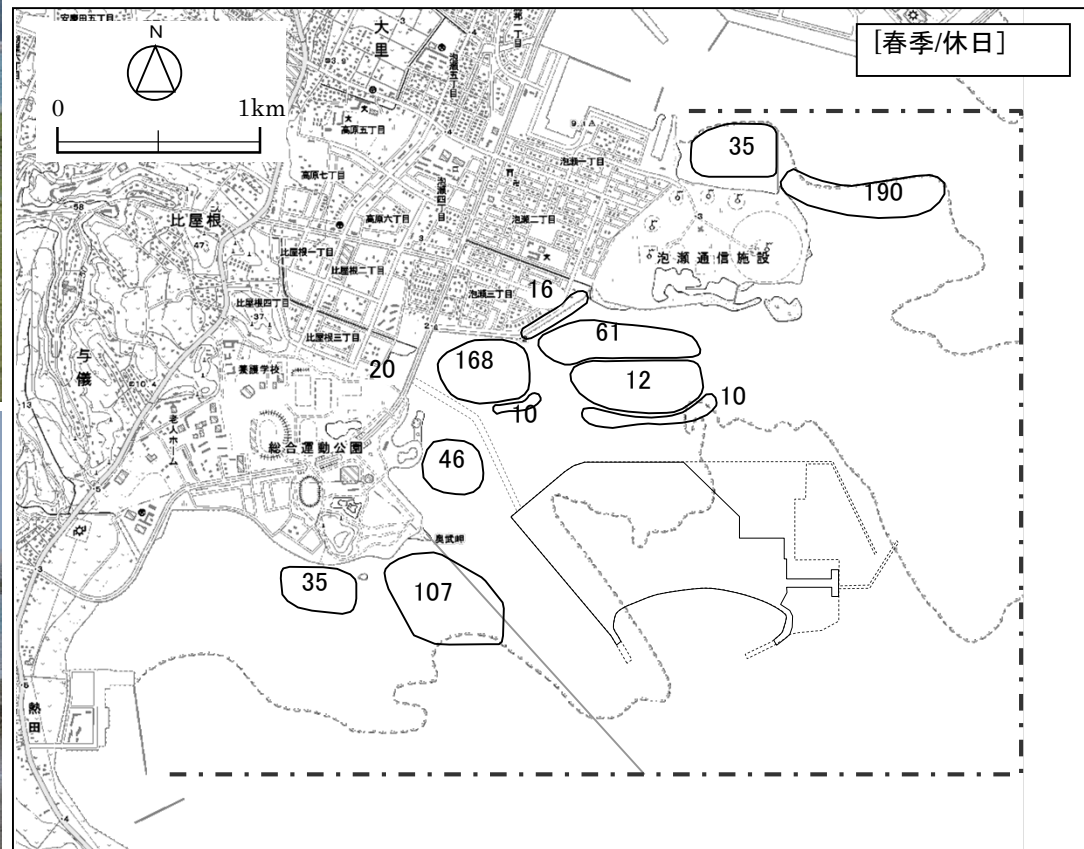


干潟域の利用状況

- ・利用人数は、季節や平日・休日ではばらつきがみられるものの、春季の休日が最も多く、干潟全域で約700人
- ・潮干狩りが最も多く、次いで、釣り、散歩



干潟の利用状況(平成22年 4月18日(日))



図中の数値は干潮時の利用人数を示す